

佐賀大学地域学歴史文化研究センター
自己点検・評価報告書
(平成 26 年度)

平成 27 年 12 月

1. 地域学歴史文化研究センターの目的・目標

(1) 目的・目標

21世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学が国立大学法人化を迎えるにあたり設定した理念・中期目標・中期計画のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する文理融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成18年4月に設立された。従って、本センターの目標は、以下の通りである。

- 1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること
 - 2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること
 - 3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること
 - 4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示すること
- この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

(2) 基本的研究活動・事業

- 1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
- 2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
- 3) 諸データベースの作成
- 4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
- 5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
- 6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
- 7) ウェブサイトによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

2. 地域学歴史文化研究センターの概要

(1) 設立経緯

佐賀大学では、平成 16 年(2004)より学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。附属図書館所蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、平成 15 年 2 月に結ばれた佐賀大学と小城町(現小城市)との地域文化交流協定事業の支援として、平成 16 年 8 月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。平成 17 年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの歴史文化研究と地域貢献事業の発展上に、さらには前述の通り佐賀大学中期計画・目標を達成するために、地域学歴史文化研究センターが平成 18 年 4 月に設立された。

(2) センターの概要

- 1) 本センターは、地域(佐賀)の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創出に向けた研究をすすめている。
- 2) 各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。
- 3) 研究拠点として、平成 18 年 10 月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4) 教職員構成は下の通り(平成 27 年 3 月時点)

センター長	1 名
副センター長	1 名
専任准教授(副センター長兼任)	1 名
専任講師	1 名
併任教授	3 名
併任准教授	2 名
特命教授	13 名
教務補佐員	1 名
事務補佐員	1 名
非常勤研究員	1 名

5) 部門別構成は以下の通り(平成 27 年 3 月時点)

考古学研究部門	重藤 輝行併任教授(部門長、文化教育学部)
	宮武 正登併任教授(全学教育機構)
国文・文献学研究部門	中尾 友香梨併任准教授(部門長、文化教育学部)
地域史・史料学研究部門	伊藤 昭弘専任准教授(部門長)
	山本 長次併任教授(経済学部)

鬼嶋 淳併任准教授(文化教育学部)

洋学・思想史研究部門 三ツ松 誠専任講師(部門長)

6) 歴任教職員(肩書きは当時のもの)

○センター長

宮島 敬一(経済学部教授)	平成 18 年 4 月～19 年 2 月
古賀 和文(副学長・理事)	平成 19 年 3 月～7 月(センター長事務取扱)
高崎 洋三(医学部教授)	平成 19 年 8 月～22 年 3 月
半田 駿 (農学部教授)	平成 22 年 4 月～24 年 3 月
青木 歳幸(センター専任教授)	平成 24 年 4 月～26 年 3 月
宮島 敦子(文化教育学部教授)	平成 26 年 4 月～

○副センター長

飯塚 一幸(文化教育学部助教授)	平成 18 年 4 月～19 年 3 月
青木 歳幸(センター専任教授)	平成 19 年 4 月～24 年 3 月
伊藤 昭弘(センター専任准教授)	平成 24 年 4 月～
宮島 敦子(文化教育学部教授)	平成 25 年 4 月～26 年 3 月

○部門長

考古学研究部門

佐田 茂 (文化教育学部教授)	平成 18 年 4 月～20 年 3 月
重藤 輝行(文化教育学部講師)	平成 20 年 4 月～

国文・文献学研究部門

井上 敏幸(文化教育学部教授)	平成 18 年 4 月～20 年 3 月
生馬 寛信(文化教育学部教授)	平成 20 年 4 月～22 年 3 月
白石 良夫(文化教育学部教授)	平成 22 年 4 月～26 年 3 月
中尾 友香梨(文化教育学部准教授)	平成 26 年 4 月～

洋学・思想史研究部門

青木 歳幸	平成 18 年 4 月～26 年 3 月
三ツ松 誠	平成 26 年 6 月～

地域史・史料学研究部門

飯塚 一幸	平成 18 年 4 月～19 年 3 月
伊藤 昭弘	平成 19 年 4 月～

○専任教員

教授 青木 歳幸	平成 18 年 4 月～26 年 3 月
講師 伊藤 昭弘	平成 18 年 4 月～19 年 11 月
准教授 伊藤 昭弘	平成 19 年 12 月～
講師 三ツ松 誠	平成 26 年 6 月～

○併任教員

佐田 茂	平成 18 年 4 月～20 年 3 月
井上 敏幸	平成 18 年 4 月～20 年 3 月
飯塚 一幸	平成 18 年 4 月～19 年 3 月
石川 亮太	平成 18 年 7 月～24 年 3 月
鬼嶋 淳	平成 19 年 10 月～
重藤 輝行	平成 20 年 4 月～
生馬 寛信	平成 20 年 4 月～22 年 3 月
白石 良夫	平成 21 年 4 月～26 年 3 月
山本 長次	平成 24 年 4 月～
宮島 敦子	平成 25 年 4 月～26 年 3 月
宮武 正登	平成 26 年 4 月～
中尾 友香梨	平成 26 年 4 月～

○特命教員

生馬 寛信(佐賀大学名誉教授)	平成 22 年 4 月～
ミヒェル・ヴォルフガング(九州大学名誉教授)	平成 22 年 4 月～
平井 昭司(元東京都市大学教授)	平成 22 年 4 月～
井上 敏幸(佐賀大学名誉教授)	平成 23 年 4 月～
鈴木 一義(国立科学博物館理工学研究部主任研究官)	平成 23 年 4 月～
松田 清 (京都外国語大学教授)	平成 23 年 4 月～
村上 隆 (京都美術工芸大学教授)	平成 23 年 4 月～
高崎 洋三(佐賀大学名誉教授)	平成 23 年 4 月～
中村 政俊(佐賀大学名誉教授)	平成 23 年 4 月～
半田 駿(佐賀大学名誉教授)	平成 24 年 4 月～
宮島 敬一(佐賀大学名誉教授)	平成 25 年 4 月～
青木 歳幸(元佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)	平成 26 年 4 月～
白石 良夫(元佐賀大学文化教育学部教授)	平成 26 年 4 月～

○非常勤博士研究員

野口 朋隆	平成 23 年 5 月～25 年 3 月
伊香賀 隆	平成 25 年 4 月～26 年 3 月

○非常勤研究員

伊香賀 隆	平成 26 年 10 月～
-------	---------------

○教務補佐員

伊藤 彰子	平成 18 年 4 月～19 年 11 月
亀井 森	平成 19 年 11 月～22 年 3 月

大塚 俊司

平成 20 年 5 月～

○事務補佐員

古賀 亜紀

平成 21 年 4 月～24 年 7 月

上祐 佐智子

平成 24 年 8 月～

3. 26年度の活動に関する自己評価

(1)教育

- ア) 教養教育を所管する教養教育運営機構／全学教育機構との連携をすすめた。具体的には専任教員による教養教育授業担当、インターフェース科目「佐賀の歴史と文化」企画・担当などである。
- イ) 上記のほか、大学コンソーシアム授業開講や、eラーニング、文化教育学部での地域学関連専門科目開講など、学内他部局と連携し教育活動を実施した。
- ウ) センター内に閲覧室を設け、歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を約 2400 点配置し、学生・市民の利用に供したほか、研究成果を展示室にて公開した。
- エ) 公開講座「佐賀学のススメ」を開講し、市民向けの地域学教育を図った。
- オ) 佐賀県立図書館との共催で市民向けの古文書講座を 10 回開催した。
- カ) 佐賀市との共催公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」4」を開催した。

〈自己評価〉

本センターは研究を専門としているが、設立以来、研究成果の教育活動への活用を意図してきた。具体的には大学教養教育における地域学教育を構想し、上記の通り教養教育機構／全学教育機構との連携を図った。

社会教育の面では、市民参加型の古文書講座や公開講座を自治体と共催などにより開催し、地域学の有効性や史料保存の重要性について、市民の理解が深まるよう努めた。

(2)研究

- ア) 佐賀大学附属図書館所蔵「小城鍋島文庫」の歴史関連資料から、小城藩の経済に関する研究を進め、成果を小城市との共催展「小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動—」を開催して市民に還元したほか、研究図録を刊行した。
- イ) 地域学歴史文化研究センターで収集した史料の研究・公開推進のため、『古文書にみる鍋島直正の藩政改革』を刊行した。
- ウ) 地域学研究の基礎的情報を蓄積するため、野中家・山本家・深江家の史料調査を実施した。
- エ) 研究プロジェクト「地域間交流分析に基づく佐賀地域の歴史文化研究—地域学の発展に向けて—」(略称地域学交流プロジェクト)を立ち上げ、学内の研究プロジェクトに採用された(3年間)。
- オ) 第 4 回在来知歴史学国際シンポジウムを後援した。
- カ) 所属教職員のほか、佐賀地域歴史文化に関する学外研究者の成果をまとめた研究紀要第 9 号を刊行した。

ク)伊藤昭弘准教授は基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成 24～26 年度、26 年度 600 千円)、同(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」(研究分担者、平成 26～30 年度、26 年度 150 千円)を獲得した。三ツ松誠講師は若手研究(B)「国学者長野義言の基礎的研究」(研究代表者、平成 26～27 年度、26 年度 800 千円)を獲得した。ほか特命教員・非常勤研究員も科研費を獲得している。

〈自己評価〉

本年度もさまざまな分野で研究成果を挙げることができた。また、新しい研究プロジェクト「交流プロジェクト」を立ち上げ、地域学の進展に向け共同研究を開始し、論文・史料集・論集などの成果を出す予定である。

(3)国際交流・地域貢献

- ア)小城市教育委員会との共催展「小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動—」を開催し、佐賀大学附属図書館『小城鍋島文庫』の研究のほか、センターにおける研究成果を市民に公開した。
- イ)上記共催展に伴い講演会を 2 回開催した。
- ウ)佐賀県との共催古文書講座を開催した。
- エ)佐賀市との共催公開講座を開催した。
- オ)「佐賀県歴史データベース」により山本家文書など佐賀県関係古文書のデータを公開した。
- カ)公開講座「佐賀学のススメ」を 6 回企画・開催した。
- キ)みやき町の公開講座に協力し、センターより講師を派遣した。
- ク)ウェブサイトを公開し、センター事業の紹介や研究成果の発表を行った。
- ケ)産学官連携事業「地域の歴史文化調査研究協力事業」のもと、県内自治体や民間団体との歴史文化面における交流・協力をすすめた。
- コ)中国の研究者との国際シンポジウムを後援した。

〈自己評価〉

展示・講演会・公開講座の開催による研究成果の市民・地域社会への還元など、本年度も大きな成果をあげることができた。また国際交流については、国際シンポジウムを後援し、中国など海外研究者との交流をすすめた。

(4)組織運営

ア)平成 27 年 3 月現在専任教員 2 名、併任教員 5 名、特命教員 13 名、教務補佐員 1 名、事務補佐員 1 名、非常勤研究員 1 名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めている。また、文化教育学部や全学教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ)各学部から選任された委員、附属図書館長・総合情報基盤センター長など本センターの業務に関わる部局の部局長など学長が必要と認めた委員、本センター長・副センター長・専任教員・部門長により構成する運営委員会(学部の教授会に相当)を3回開催し、センター運営に関わる事案の審議を行った。

ウ)センター専任・併任教員による会議を2ヶ月に1度開催し、センターの運営について検討した。

エ)所蔵図書・資料の増加による菊楠シュライバー館の狭隘化、および火災から貴重資料を守るため、理工学部3号館に研究室を借用し、書庫・作業・会議スペースとして活用している。

〈自己評価〉

組織運営はこれまで同様円滑にすすめることができた。しかし菊楠シュライバー館の狭隘化や火災対応の未整備が今後の課題である。

4. 事業一覧

個人の肩書はすべて当時のもの

A) 展示

① 特別展

○ 主催・共催

「小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動—」(小城市教育委員会共催、11月1日～12月7日、於 小城市立歴史資料館)

○ 協力

「医学のあけぼのから先端医療まで—300年の医学の進歩を可視化する—」(サガテレビ・佐賀大学主催、佐賀県医師会共催、センター協力、12月13日～27年1月12日、於 佐賀大学美術館)

② センター展示室(菊楠シュライバー館1F)におけるミニ展示

○ 常設展

「写真にみる旧制佐賀高校」

○ 特別展

「近世の医学と佐賀」

B) 講演会

○ 特別展「小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動—」記念講演会(小城市教育委員会主催、センター協力、11月8日、22日、於 小城市立歴史資料館・牛津会館)

伊藤昭弘(センター専任准教授・副センター長)「小城藩の財政経済政策」

山崎 功(文化教育学部教授)「南洋貿易社長時代の田中丸善蔵氏」

C) シンポジウム

○ 第4回在来知歴史学国際シンポジウム(在来知歴史学会・佐賀大学国際在来知歴史学研究所主催、センター後援、於 理工学部)(10月25～28日)

1 日目

陳 建 (中国人民大学教授)「20世紀後半期的日元国際化研究」

大串浩一郎(大学院工学系研究科教授)「地盤工学的ならびに水工学的アプローチによる城原川霞堤の機能評価」

田端正明(佐賀大学名誉教授)「三重津海軍所跡からの発掘遺物の局所分析—銅製品、埴塙—」

牛 亜華(中国中医科学院中医薬情報研究所研究員)「伝統中医学与現代医学交融的探索陳可冀院士的中西医結合実践」

青木歳幸(センター特命教授)「日本における医師の国家資格試験制度の系譜」

童 徳琴(九州大学大学院)「明治前期における日本産薬用人参の輸出動向と産業化」

周 見 (中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員)「渋沢栄一訪問中国及对中国
実行經濟開放政策的建議」

中村政俊(佐賀大学名誉教授)「産業用ロボット開発の歴史と在来知との関わり—在来知
に基づくもの作り体制—」

李 毅 (中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員)「由索尼案例看傳統与現代因
素關係处理对轉型期企業成長的意義」

2 日目

長野 暹(経済学部名誉教授・センター特命教授)「環境改善と經濟発展」

庄 貴陽(中国社会科学院城市發展与環境研究所研究員)「中国新一論城鎮化的資源
環境挑戰与政策需求」

張 涛(中国清華大学自動化系教授)「關於考古数据空間特征描述研究」

竹下幸一(佐賀大学客員研究員)「電子書籍・ノート」を用いた「鉄砲全書」の研究」

W・ミヒェル(九州大学名誉教授)「人骨の真形—日本における人体解剖の黎明期につい
て」

脇田久伸(福岡大学名誉教授)「幕末から明治初期までの歴史鉄試料の分析化学的研究」

倪 月菊(中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員)「戦后日本の貿易結構轉型
經驗及其对中国的借鑑意義」

鬼嶋 淳(文化教育学部・センター併任准教授)「高度成長後半期の環境資源問題をめぐ
る地域女性の運動—大分中央生活学校を事例として—」

中山博智(文字芸術研究所)「釋「口」—白川静博士の「口」字説を再考—」

3 日目

鬼塚克忠(佐賀大学名誉教授)「古代の墓制—特に黄河流域の地下埋葬に見る浸透水
対策について」

巖 立賢(中国社会科学院近代史研究所研究員)「試論農業労働生産率对于由傳統手
工業向近代大工業過渡模式的影响—英、日、中三国的比較研究—」

藤井鹿男(佐賀近代史研究会)「「老農」飛松忠四郎の業績—佐賀近代史研究会による
在来知」発掘活動の一事例—」

山本長次(経済学部・センター併任教授)「市村清のリコー三愛グループの諸事業と佐賀」

D) 公開講座など

○佐賀大学公開講座(センター企画)「佐賀学のススメ」(平成 26 年 9 月～27 年 2 月、全 6 回、於
佐賀大学附属図書館ほか)

○佐賀大学公開講座「幕末の歴史から見える「佐賀の底力」4」(佐賀市共催、平成 26 年 10 月～
27 年 2 月、全 5 回、於 佐賀大学教養教育ほか)

○佐賀大学公開講座(佐賀市立図書館共催)「私が教えた佐賀の歴史と文化 100 分集中講
義」(平成 26 年 9 月～27 年 1 月、全 3 回、於 佐賀市立図書館)

- 古文書講座中級編(地域学歴史文化研究センター・佐賀県立図書館共催、平成 26 年 5 月～27 年 2 月、全 10 回、於 佐賀県立図書館)

E) 調査

- 佐賀市・野中家文書(薬種商、約 1 万点)
- 佐賀市・深江家文書(佐賀藩士、約 500 点)
- 伊万里市・山本家文書(酒造業、佐賀県県議など、約 1 万 5 千点)

F) 刊行物

- 伊藤昭弘(センター専任准教授・副センター長)編『小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動—』
- 伊藤昭弘編『古文書に見る鍋島直正の藩政改革』
- 『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』第 9 号
- 佐賀近代史研究会編『佐賀近代史年表 大正編 大正 3 年 1 月～大正 3 年 12 月』

G) 研究プロジェクトなど

- 佐賀大学学内研究プロジェクト
「地域間交流分析に基づく佐賀地域の歴史文化研究—地域学の発展に向けて—」(代表者伊藤昭弘、平成 26～28 年)
- 産学官連携事業
「地域の歴史文化調査研究協力事業」(代表伊藤昭弘(専任准教授)、佐賀県・鹿島市・小城市などと連携)

H) 外部資金

- 科学研究費補助金
伊藤昭弘 基盤研究(C)「近世後期藩財政像の再構築」(研究代表者、平成 24～26 年度、26 年度 600 千円)
伊藤昭弘 基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」(研究分担者、平成 26～30 年度、26 年度 150 千円)
三ツ松 誠 若手研究(B)「国学者長野義言の基礎的研究」(研究代表者、平成 26～27 年度、26 年度 800 千円)
青木 歳幸 基盤研究(C)「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とする西南諸藩の医学教育の研究」(研究代表者、平成 24～26 年度、26 年度 1500 千円)
伊香賀 隆 基盤研究(C)「江戸期における『易学啓蒙』研究—安東省菴『啓蒙難解』を中心に—」(平成 26～28 年度、26 年度 500 千円)

I) 教育関係

○授業担当(専任教員)

・伊藤 昭弘専任准教授

◇教養教育

「近世日本の社会と経済」

「佐賀の歴史と文化1」

◇文化教育学部

「西日本地域史論」

◇教育学研究科

「地域史研究特論」

◇e・ラーニング

「チャレンジ佐賀学」